

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	るふれ宮城野		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 3日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33人	(回答者数) 28人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様なプログラムの提供 (運動・食事・創作・自立に向けた活動など)	成功体験を積める仕組みづくり 運動を通しての成功体験の他、自己肯定感を育む声掛け等意識している	スタッフの専門性の向上 外部研修の参加、資格取得支援などの強化
2	安心安全な環境 (広々とした室内、清潔な空間づくり)	地域との繋がりを活かした活動 近隣の児童館や施設との連携をし始めた	療育プログラムの拡充 ソーシャルスキルトレーニング (SST) など 新しいアプローチの導入
3	アットホームな雰囲気 (子どもたちが安心して過ごせる家庭的な雰囲気)	スタッフの研修やスキルアップ 定期的な勉強会や外部研修を取り入れ、支援の質を向上しようとしている	安心・安全な設備の見直し 事故防止のための環境チェックを強化し、定期的なメンテナンスを実施

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材不足やスタッフ負担 支援の質を維持するためにもスタッフの確保や業務負担の軽減が必要	福祉業界全体での人材不足 業務量が多い1人ひとりの負担が増えているため	採用強化とスタッフの働きやすい環境づくり
2	行動が難しい子供への対応 スタッフの経験値などによって対応に差が出ることがある	感情のコントロールが難しい 子どもへの対応方法が確立されていないため	対応マニュアルの作成 SSTの導入
3	施設のスペースの制限 個別対応が求められる子供に対して十分なスペースの確保ができていない	建物、設備等に予算が現在かけられないため	事務所内の家具などの配置転換や収納の工夫をしスペースを確保する